

## 「ちょっとしたニュース」です

文部科学省が令和4年7月28日に公表した「全国学力・学習状況調査(全国学力テスト)」では、SNSや動画視聴を行う時間が長いほど、各教科の平均正答率が低くなる傾向が浮かび上がった。

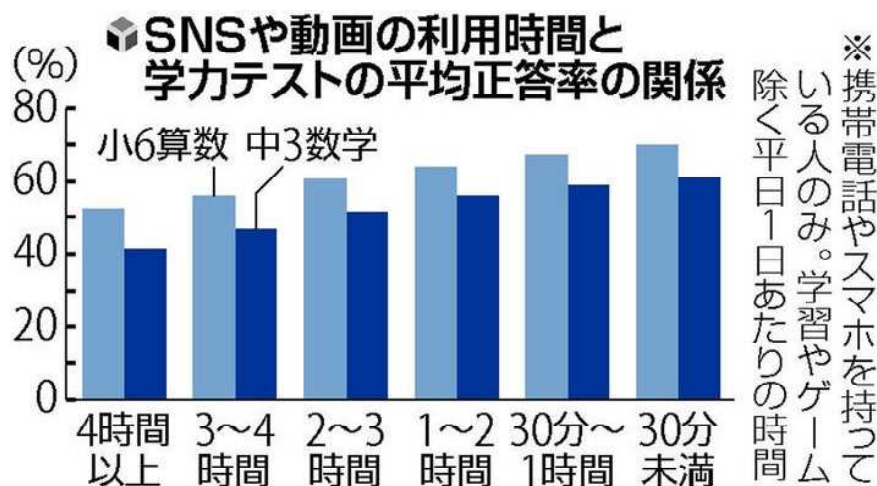
全国学力テストは4月に実施され、小学6年生と中学3年生の計約191万人が国語と算数・数学、理科を受けた。児童生徒の生活や学習状況を尋ねるアンケートでは今回初めて、スマートフォンや携帯電話でSNSや動画視聴に費やしている時間を調べ、平均正答率との関係を分析した。

平日にSNSや動画視聴など(学習やゲームを除く)を行った時間を聞いたところ、1日「1時間以上」が小学6年生で50.6%、中学3年生で75.6%だった。「4時間以上」は小6で10.9%、中3が15.4%いた。

利用時間が長いほど教科ごとの正答率は低くなり、「4時間以上」は「30分未満」より、小6で17~18ポイント、中3で13~19ポイント低かった。小中とも、算数・数学のポイント差が最も大きかった。

2012年度から断続的に調査してきたテレビゲーム(スマホを使ったゲーム含む)の時間では、「1時間以上」する割合は、小6で75.7%、中3で71%だった。コロナ禍前の17年度より小6で21ポイント、中3で13ポイント増えた。

文科省の担当者は「家庭でのスマホの適切な使い方についてルール作りが必要ではないか」と述べた。



令和4年7月29日 「読賣新聞 オンライン」より

ご家庭でのスマホの利用について、お子さんとルール作りをしているでしょうか。

一昔前に、スマホ育児(スマホ育児とは、主に小さい子供の育児にスマホを利用すること。)について騒がれ、赤ちゃんにスマホを預けっぱなしで、母が育児をしていないことが問題になっていました。スマホの使用もデメリットばかりではありません。正しい使い方を教えるのが私たち大人の責任です。

本日の情報モラル教室とは、話題が違うかもしれませんが、是非、スマホの正しい使用の仕方を子どもたちに生活の基盤である家庭・学校で教えていきたいものです。